



一隅を照らす運動総本部だより
No. 59



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<https://ichigu.net>

森川宏映天台座主猥下ご遷化

令和三年十一月二十二日、第二五七七天台座主森川宏映猥下が世寿九十七歳にてご遷化された。平成二十七年十二月十四日より天台座主職を務められ、「一隅を照らす運動」総裁も務められていた。

なお密葬は令和三年十一月二十六日、水尾寂芳延暦寺執行を喪主に滋賀院門跡にて、本葬は令和四年一月十八日、阿部昌宏天台宗宗務総長を喪主に天台宗務庁において天台宗葬として執り行われた。謹んでご報告申し上げます。

「一隅を照らす運動」会長に

叡南覺範探題大僧正が就任

昨年十一月に会長であられた大樹孝啓探題大僧正が天台座主にご上任され、「一隅を照らす運動」総裁にご就任された。そのため令和四年二月二日に開催された「一隅を照らす運動」理事会において、叡南覺範師が全会一致の推薦を受け、会長に就任された。

叡南新会長は、一九二六年生まれの九五歳。昭和二十五年に延暦寺一山玉蓮院の住職、平成四年からは延暦寺一山建立院住

職、平成十八年からは毘沙門堂門跡の住職を十四年にわたって務めた。その間、宗議会議員をはじめ、様々な役職に就かれ平成二十六年に探題に補任されている。

第十九回

心のつどいin比叡山

十月二十九日 比叡山延暦寺会館

第十九回「心のつどいin比叡山」（一隅を照らす運動総本部主催）を比叡山延暦寺で開催。一般公募で集まった男女二十名が参加した。

本年も昨年同様、新型コロナウイルスの



無動寺明王堂にて記念撮影

影響を考慮し、例年実施していた宿泊並びに室内にて実施する行事を控え開催した。

開講式では、竹内純照一隅を照らす運動総本部長より



小鴨副執行の講話

挨拶があり、続いて日程説明や注意事項等の説明の後、研究会がはじまった。

最初は坂本ケープルで比叡山に上がり、無動寺明王堂に向かった。



法華総持院東塔にて説明をうける

本堂の前で南浩元大阿闍梨と一緒に記念撮影を行ない、そののち護摩供に随喜した。それぞれの願いを書いた護摩木が炊き上げられる中、参加者たちは一心に不動明王の御真言を唱えていた。最後に阿闍梨様より御加持を受けた。

午後からは、延暦寺副執行小鴨寛俊師よりご講話を頂いた。そののち伝教大師一千二百年大遠忌記念事業として開催されている「戒壇院と法華総持院東塔」特別拝観（現

在は終了しております）を行った。特に戒壇院は天台宗僧侶でさえ、生涯に一度しか入らない場所だけに貴重な参拝となった。研修を終えた参加者たちは「是非来年も参加したい」、「大阿闍梨様の御加持を受けられてよかった」、「戒壇院と法華総持院東塔の参拝は長い歴史を感じる事ができました」と感想を述べていた。

一隅を照らす運動推進大会

○東海大会



東海教区本部（山田亮盛教区本部長）では、令和三年十月二十四日に静岡県掛川市の普門寺を会場に、天台宗東海教区第八部第六十回「一隅を照らす運動」檀信徒会を開催し、五十名の参加者が集まった。コロナ禍により時間

の短縮や参加人数を減らしての開催となったため、講演のみの開催となった。上原行照北嶺大行満大阿闍梨を講師に「山川草木悉皆成仏」と題した講演が行われ、参加者たちは貴重な話しに聞き入っていた。最後に上原大阿闍梨から参加者へ御加持をいただき、大会は終了した。

第三十六回 全国一斉托鉢

令和三年十二月一日、第三十六回全国一斉托鉢が開始された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。本年もコロナ禍のため、各教区それぞれの地域情勢に合わせての実施となった。そのような状況の中、多くの方の協力をいただき令和四年一月二十日現在で三十二会場の実施報告があった。

全国での募金総額は六百七十四万二千三百二十七円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあいなどに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に三百五十万二千九百二十八円が寄託された。

各地の様相

（令和四年一月二十日まで）に各教区より提出された報告書の内容を掲載）

延暦寺一山



令和三年十二月一日、比叡山麓の天津市坂本地区一帯で行われ、今回で三十六回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住職や職員、天台宗務庁の役員、総勢約百名が

参加した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は、延暦寺水尾寂芳執行を先頭に「作り道」を托鉢行脚。その後、坂本界隈の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、天台宗務庁の役員と延暦寺一山寺庭婦人会が、JR比叡山坂本駅と京阪坂本比叡山口駅にて街頭募金を実施した。

なお、当日寄せられた浄財は歳末たすけあい義援金と海外たすけあい義援金に寄託された。

滋賀教区本部

十二月一日、坂浅部玉泉寺檀信徒宅にて総勢二十五名が戸別托鉢を実施。当日は、四班に分かれて約百二十戸のお宅を回った。托鉢の文化がない地域ではあったが、事前に住職より連絡をしていたため、スムーズに実施することができた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に六万円を寄託。

兵庫教区本部

・第二部では十二月四日、コロナウィルス感染症の影響により戸別托鉢は実施せず、



和田寺にて部内寺院僧侶十名と和田寺総代で法要を執り行った。浄財については事前に浄財袋を配布し、募金を集めた。寄せられた浄財は、丹波篠山市社会福祉

協議会に十五万円、加東市社会福祉協議会に三万円、三田市社会福祉協議会に三万円、地球救援事務局に十四万七千六百円を寄託。

・第三部では十二月一日、法持院・薬王院・鳳凰寺檀信徒各地域の三ヶ所にて総勢五十九名が戸別托鉢を実施。三ヶ所の地域に分かれ、それぞれの本堂前にて参加者一同で法楽を行った後、各寺の案内者先導の元、グループに分かれて托鉢を実施した。終了後、各寺院にて情報交換を行った。各家では来訪を告げると玄関前に出てきて、読経を真剣に聞き入っておられた。寄せられた浄財は、多可町社会福祉協議会に十五万四千五百円、地球救援事務局に十五万四千五百円を寄託。

・第四部では十二月一日、姫路駅前から姫路城前までの間に総勢十二名が街頭募金を実施。姫路駅前・山陽百貨店前・姫路城前の複数



場所において移動しながら街頭托鉢を実施。般若心経を唱えながらリーフレットやティッシュを配布した。風が強い中であつたが、それでも何人もの方が足を止めてお布施をしてくださった。また、天台宗について質問される方も複数おられた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に七万六千七百七十一円を寄託。

・第五部では十一月二十一日、美方郡新温泉町桐岡地区にて総勢十八名が戸別托鉢を実施。住職や総代による事前告知を行っていたため、戸別での対応が非常にスムーズであつた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に災害支援金として二万八千円を寄託。

また、十二月一日には新温泉町湯・細田・歌長地域にて総勢十名が戸別托鉢を実施。雨風が強く冷たい中、軒先でお待ちいただく檀信徒や、後から追いかけて



てくださる方もあり、例年通りの托鉢となった。寄せられた浄財は、新温泉町社会福祉協議会に十万円、地球救援事務局に東日本大震災義援金として八万六千三百円を寄託。

・第六部では十二月四日、蓮華寺檀中にて総勢三十二名が戸別托鉢を実施。参加者を六班に分けて、行われた。地元の方に道案内をしていただき、スムーズに実施することができた。

蓮華寺檀中の方々は事前に案内を

していたので、快くご協力いただけた。

寄せられた浄財は、丹波市社会福祉協議会に八万六千六百五十円、地球救援事務局に八万三千六百五十円を寄託。



岡山教区本部

・第一部より三万円を地球救援事務局に寄託。

・第二部では寄せられた浄財、十二万円を第二部災害基金へ、九万六千八百八円を地球救援事務局に寄託。

・第四部では部内各寺院より寄せられた浄財、五万円を玉島社会福祉協議会、二十二万五千円を地球救援事務局に寄託。

・第五部では寄せられた浄財、三万円を山陽新聞社社会事業団に寄託。

・第六部より五万円を地球救援事務局に寄託。

山陰教区本部



・十二月一日、第一部観照院にて総勢二十七名が戸別托鉢を実施。およそ一ヶ月前に観照院檀徒総代に托鉢実施について説明をし、事前に案内文書と浄財袋を檀信

徒各家、約百

二十軒に配布

した。当日は

強風の中、僧

侶一名、檀信

徒二名程度の

グループで各

家をまわって

読経し、浄財

をお預かりし

て、ポケット

ティッシュと

リーフレットをお渡しした。寄せられた

浄財は、岩美町社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に八万三千四百八十四円を寄託。

また、十二月六日には三朝温泉街にて総勢十九名が戸別托鉢を実施。山内寺院と寺庭婦人、檀信徒が参加し、三班に分かれて行った。毎年恒例の托鉢であり、皆さま心待ちにしていたいただき協力的であった。寄せられた浄財は、三朝町共同募金会に六万六千六百九十四円、地球救援事務局に六万六千円を寄託。

四国教区本部

第一部においては、例年、高松市商店街において僧侶と檀信徒が買い物客に募金の



呼びかけを行っていたが、本年はコロナ第六波の懸念があり、檀信・檀信徒が集まっていたのは取りやめとなった。そのため、部内各寺院においてそれぞれに募金活動を実施した。各寺院の状況により、募金箱の設置や檀信徒へのお願い、参拝者に呼びかけるなど様々な方法で行われた。寄せられた浄財は、地球救済事務局に十四万五千八百四円を寄託。



九州西教区本部

九州西教区では本年も新型コロナウイルス感染防止のため、各部内における托鉢は中止となった。各部内寺院ではそれぞれに募金活動等を行い、寄せられた浄財は地球救済事務局に寄託した。筑前部より一万三千円、柳川部より一万三千三百三十円、肥前西部より二万六千五百円、久留米部より三万五千円を寄託。

東海教区本部

十二月二十一日、覚王山日泰寺境内にて総勢十一名が托鉢を実施。托鉢実施日は、毎年覚王山日泰寺の御縁日にあたり多くの参拝者が



訪れた。特に年末には、境内に露店が並び正月用品など多くの品が販売されている。新たなコロナ禍の中、地球救済の呼びかけに多くの方から浄財を寄進していただいた。寄せられた浄財は、中日新聞に五万円、天台宗仏教青年連盟に十萬二千六百九十七円、地球救済事務局に五万円を寄託。

信越教区本部

十二月四日、善光寺仁王門周辺にて総勢七名が街頭托鉢を実施。信越教区仏教青年会・長野部を中心とした開催となった。コロナ感染予防のため、マスク着用、アルコール消毒の徹底・設置にて実施をした。協

力者へのリーフレット・ティッシュの配布も設置してお取りいただく様にした。土曜日という点や長野県ではコロナも一旦の落ち着きの中で、



信徒も多く、お声かけすることができた。お声かけをする中で、励ましのお言葉を多数頂戴した。寄せられた浄財は、地球救済事務局に四万四千円を寄託。

北総教区本部

北総教区本部では、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、教区内各寺院それぞれが募金を集めることとなった。寄せられた浄財は、地球救済事務局に十七万八千六百六十二円を寄託。

南総教区本部

十二月一日、第三部では新型コロナウイルス防

の観点から、街頭での募金活動は困難であるとして、第三部の各寺院で募金活動を行った。法事やお墓参り、参拝等での協力のため、檀家の方々にお声かけをし、快くご協力いただけた。寄せられた浄財は、タイ・プラティープ財団に五万円、地球救済事務局に四万二千元を寄託。

群馬教区本部

・南前橋部では十二月四日、西光寺・

永福寺にて総勢七十一名が戸別托鉢を実施。

昨年度は、開会行事を屋外で行ったが、今年度は室内で実施した。

マスク着用・消毒・換気等の対策を講じての参加人数の増員、堂内での開会行事は共に問題なかったように思われた。訪問先では快く迎えていただいた。寄せられた浄財は、群馬教区本部に三十一万三千九百九十八円、地球救済事務局に十万円



を寄託。

・北前橋部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に二万六千円、地球救済事務局に三万円を寄託。

・西前橋部では十二月一日、徳藏寺・元総社町地区にて総勢四十三名が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、上毛新聞社に五万五千元、仏教保護会に五万円、高崎市社会福祉協議会に五万円、群馬教区本部に十万円、地球救済事務局に十万円を寄託。

・高崎部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に三万円、地球救済事務局に三万円を寄託。

・富岡部では例年実施の托鉢は中止となったため、各寺院より浄財を集める事となった。寄せられた浄財は、社会福祉協議会に十一万五千元、群馬教区本部に一万円、地球救済事務局に二万円を寄託。

・多野部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に二万円、地球救済事務局に一万円を寄託。

・北群馬部では十二月四日、洪川市市内・眞光寺にて総勢五十名が街頭募金を実施。全国一斉托鉢の趣旨をご理解いただき、

檀信徒の皆様はもちろん、街頭の皆様からもたくさんの浄財をお預かりした。コロナ禍のためか街頭での募金件数は例年より少なかった。寄せられた浄財は、洪川市社会福祉協議会に十万円、上毛新聞社に十万円、群馬教区本部に六万五千九百四十九円、地球救済事務局に六万円を寄託。

・沼田部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に二万円、地球救済事務局に一万円を寄託。

・桐生部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に七万円、地球救済事務局に五万円を寄託。

・東前橋部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に六万円、地球救済事務局に六万円を寄託。

・伊勢崎部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に二十万円、地球救済事務局に十四万八千三百円を寄託。

・世良田部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万円、地球救済事務局に一万円を寄託。

・下仁田部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

・西群馬部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

茨城教区本部

十二月四日、第二部千光寺にて総勢十七名が戸別托鉢を実施。檀信徒の家々を托鉢した。寄せられた浄財は、地球救援事務局に二十万五千六百十八円を寄託。

栃木教区本部

十二月一日、JR宇都宮駅西口ロータリー内にて総勢三十二名が街頭募金を実施。コロナのため、大声での呼びかけをせず、拡声器等で呼びかけた。しようぐうさん



の着ぐるみも出勤し、人目を集めるようにした。寄せられた浄財は、地球救援事務局に六万二千七百二十円を寄託。

山形教区本部

十一月二十一日から十二月十日の期間、新庄部松巖寺及び市内にて総勢十八名が街頭募金を実施。新型コロナ感染予防のため、実施地区である、新庄部寺院と布教師会、教区職員での募金活動となった。寒風の中松巖寺から山新支社までの道程にて拡声器を用いて托鉢の意義を説きながら、少しでも地域の人々の励みになるようにと願いながらの実施となった。また、教区全寺院においては、募金の協力を個別に募り、多くの浄財が寄せられた。寄せられた浄財は、山新愛の事業団に七万三千五百四円、地球救援事務局に九万一千七百三円を寄託。



一隅を照らす運動 地球救援事業

海外支援活動のご報告

一隅を照らす運動総本部では海外での地球救援事業を展開していますが、その中には既に活動を終了したものもあります。そこでそれらについて、活動の概要や経過、成果などをご報告させていただきます。

なお、詳細については、一隅を照らす運動ホームページの「地球救援」のページをご覧ください。

内モンゴル植林活動の報告

一隅を照らす運動総本部は、中国・内モンゴル自治区での植林活動などに取り組んでいる長野県飯田市の「NPO法人草原の風（以下、草原の風）」の活動に協力して、二〇〇七年〜二〇一四年の間、植林ツアーへの参加者募集・派遣、植林費用や病院建設の資金援助、現地住民との交流などの事業を行いました。

内モンゴルでは、草を根こそぎ食べる家畜のカシミアヤギの増加や温暖化に伴って、砂漠化が進んでいました。草原の風は同地出身で、結婚して飯田市に居住していた



地元住民による植林の様子



植林によって少しずつ緑が戻っている

佐々木ハスゲレルさんとの出会いを契機に支援活動を始め、植林や医療機器の寄付、就学支援などを行いました。

当初、植林活動は現地の遊牧民から理解が得られませんでした。が、草原の風の地道な活動や現地メディアを使った積極的な周知によって遊牧民たちにも緑化意識が芽生え、自ら本格的な植林に乗り出すようになって、次第に活動の大半が地元住民の手で

行われるようになりました。

わずかな量の水でも育つヤナギやポプラなど四百二十二万本を植えた土地は九百六十七ヘクタールにも及び、住民たちは果樹産地を作るべく、リンゴやナシ、ブドウなどを植樹したり、井戸を掘ったりもしました。

草原の風の十五年間の取り組みで、砂漠化した土地に緑が戻りつつあることなどが

ら、植林活動は二〇一八年五月で一区切りしました。二〇二一年現在、草原の風はNPO法人の解散手続きに入る予定と聞いています。

この活動を通じて現地視察や植林活動に参加した人は、一隅を照らす運動総本部の関係では述べ七十一人（総本部、比叡山高校生、駒込高校生を含む）に及び、植林活動の現地支援のために二十万円を、内モンゴル病院建設のために二十万円を、それぞれ寄贈しました。

ここに、植林ツアーにご参加くださった皆さん、比叡山高校や駒込高校の生徒の方々に感謝申し上げ、当活動の報告とさせていただきます。

ラオス学校建設活動の報告

一隅を照らす運動総本部は、「国の繁栄の基礎は教育から」というラオス政府の考えに呼応して現地で活動を続けるボランティア団体「BAC仏教支援センター（以下、BAC）」を通じて、一九九二年より「ラオス学校建設プロジェクト」を展開し、「タイ・ラオス交流親善視察団」を派遣して学校建設費用を支援すると共に、「ラオス学校建設団」を派遣して現地での実践活動にも取り組みました。

この視察団及び建設団派遣の活動は一九九二年度から二〇一八年度まで行われ、中学校、小学校、幼稚園など合計二十七校の建設に寄与し、支援総額は七、〇六二万円（その多くは教区や団体などからの指定寄付によるもの）に上りました。また文房具や玩具等を寄贈するなど、ラオスの教育環境の改善に貢献してきました。

期間中に視察団及び建設団に参加・派遣した人は、延べ約三百七十人に及びます。特に建設団に参加いただいた若い人たちは、学校建設の体験を通じてラオスの子どもたちや村人と交流することなどによって、教育の大切さや本当の豊かさとは何かを学び、また道中で立ち寄るタイのドゥアン・プラティープ財団でのスラム視察等を通じて、繁栄がもたらす格差社会の問題など国際的な広い視野を養うと共に、一隅を照らす運動の精神



学校建設団による作業の様子

を学んでいた
 だく機会を提
 供することが
 できたと思
 います。
 しかしなが
 ら、時代の流
 れに伴い、ラ
 オス国内情勢

は周辺国の経済支援や大企業による教育支援事業の展開等により、近年大きく様変わりしました（都市部は発展著しいものの、僻地の状況はあまり変わってなく、両者の格差は拡大し、教育事情も解決したわけではありません）。

このような事情により、一隅を照らす運動は発足五十周年を迎える二〇一九年度までに、これまで行ってきたラオス学校建設



一隅を照らす運動の支援によって建てられた学校

支援活動を終了することにしました。

一隅を照らす運動総本部が、ラオス学校支援を始めてから今日まで三十年近くが過ぎ、この支援活動によって建設された学校などが次第に老朽化していることも考えられます。BACは、ラオスで不足している学校数を増やすことを目的としているため、建物の完成と現地への引き渡しをもってプロジェクトを終了し、その後の校舎の管理運営などには関与しないという立場を取っています（自主的な管理運営が可能で、調度品なども自己調達できることが学校建設の要件）。加えて、建設地の多くが支援の届きにくい僻地であるため、BACは一部を除き、これまでに建設した学校等の詳しい追跡調査は実施しておらず、一隅総本部としても詳しい現状を把握することが出来ませんでした。

皆さまの善意やご協力によって完成した学校が、現地の人たちによる適切な修理などが重ねられ、これからの現地の教育に寄与していくことを期待します。また、建設団に参加した方たちがその経験を生かして、今後も社会に貢献くださいますようお願いいたします。

一隅を照らす運動ニュース

◎スタディーツアーオンライン交流を開催

一隅を照らす運動総本部では、平成二十八年より比叡山高等学校と駒込高等学校

の生徒を伴って、



ドゥアン・プラ
ティープ財団
(タイ王国)を
訪問するスタ
ディーツアーを
実施してきた。こ
のスタディー
ツアーは過去四回
実施されており、

「一隅を照らす」

人材を育成する
ことを目的に、
アジアの貧困地

域の現状に触れ、
日本との生活環
境の違いや学習
しただけでは得
ることのできな
い経験を積み、
見聞を広めても
らうために行っ
てきた事業であ

る。

しかし、一昨年来より、世界的な拡がり
をみせる新型コロナウイルス感染症の影響
から、現地研修が実施出来ない状況となっ
ていた。本年も中止を余儀なくされたが、
代替案として、



令和三年十月二
十六日、天台宗
務庁と比叡山高
等学校、駒込高
等学校、ドゥア
ン・プラティー
プ財団、「生き
直しの学校」チ
ュンポーン校の
五カ所をインタ
ーネットで繋ぎ、

「一隅を照らす
運動」スタデー
ィツアーオンラ
イン交流を開催
した。

同日、日本時
間午後四時（タ
イ現地時間午後
二時）から約一
時間、現地スタ
ッフの通訳を通



◎比叡山高校宗内生が托鉢浄財を寄託

オンラインでの交流会は、一隅を照らす
運動総本部としても初めての試みであり、
限られた時間での交流であったが、双方活
発に発言がなされ、有意義な時間を過ごす
ことが出来た。

令和三年十二

月十五日、比叡

山高校の宗内生

三名、草別陽善

さん（二年）、

川岸洗喜さん

（二年）、松崎隆

田さん（一年）

と長山弘範山家

寮寮長が来庁し

令和三年十二月

四日に行われた

「寒行托鉢」で集まった浄財五万六千四百

二十円を地球救援募金として、一隅を照ら
す運動総本部に寄託した。

この托鉢は、宗内生が実践仏教の一環として、大津市仰木地区において毎年行っているもので、黒素絹に手甲、脚絆、網代笠姿に装束を整え、各家々を行脚した。

◎NHKに浄財を寄託

令和三年十二月二十日、総本部は「歳末たすけあい」と「海外たすけあい」へ義援金を寄託した。

NHK大津放送局から手島一宏局長、日本赤十字社滋賀県支部から丸尾勉事務局長、社会福祉法人滋賀県共同募金会から森尚一常務理事・事務局長に來庁いただき、阿部昌宏一隅を照らす運動理事長、水尾寂芳同運動副理事長からそれぞれ目録が手渡された。



歳末たすけあいには、十二月一日に比叡山山麓坂本地区で行われた「天台宗全国一斉托鉢」戸別托鉢にて寄せられた浄財六十四万一千八百四十二円。

海外たすけあいには、地球救援事務局から五十万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式には比叡山幼稚園から代表して園児二名と保護者二名も出席し、比叡山幼稚園の有志による浄財が園児たちから手島局長に手渡された。

「歳末たすけあい」「海外たすけあい」は国内外の支援の必要な方々のために役立てられる。

◎三千院門跡が浄財を寄託

令和四年一月六日、三千院門跡の穴穂行仁執事長が天台宗務庁に來庁し、一隅を照らす運動総本部へ六十六万六千一百円の浄財が寄託された。

この浄財は、京都市左京区大原の三千院



一帯で、令和三年十二月十九日に実施された、歳末の恒例行事である「托鉢寒行」で集まったもので、地球救援事務局の様々な救援活動に役立てられる。

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

令和四年二月二日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において令和三年度第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において令和四年度「一隅を照らす運動」の事業計画、各会計の予算等が審議・承認された。

また、今回の理事会で会長、顧問の推薦、監事就任についてそれぞれ承認・報告された。

【会長】

叡南 覺範師

延暦寺一山 建立院住職…新任

【顧問】

西郊 良光師

神奈川教区 圓滿寺住職…再任

阿 純孝師

茨城教区 千妙寺住職…再任

木ノ下寂俊師

京都教区 方廣寺前住職…再任

小堀 光實師

京都教区 三千院門跡門主…新任

【監事】

山岡 智恢師

滋賀教区 石垣坊住職…再任